



イノベーション・ラボ・アジアニュース

北欧イノベーションエコシステム ニュースレター第4号では、2020年の日本の北欧諸国へのベンチャー投資の動向と、コロナ禍の影響について考察します。8月現在で確認されている北欧と日本間の投資事例は以下の通りです。

-  FI **Varjo** (NordicNinja VC) - シリーズ C
Logmore (NordicNinja VC) - シリーズ A
Sensible 4 (NordicNinja VC, 伊藤忠) - シリーズ A
-  EE **Veriff** (NordicNinja VC) - シリーズ B
Cleveron (伊藤忠) - 研究開発の覚書
Clanbeat (Mistletoe) - シード
Tera VC (伊藤忠) - LP
Thorgate Ventures III (Alesco ventures) - LP
-  SE **Voi** (NordicNinja VC) - シリーズ B
-  NO **Brandpad** (Thorgate Ventures III) - プレシード
-  DK **Grazper** (横河電機) - M&A

当然のことながら新型コロナウィルスの影響で、日本から北欧諸国への投資活動は減少しています。昨年行われた投資・買収は全体で20件に上りましたが、今年は8月現在でわずか7-8件。景気後退と経済不安がその大きな要因であることは疑いありませんが、直接会って進めていく一般的なビジネス慣行が激変してしまったことも同じく大きな要因でしょう。テック系エコシステムが「ニューノーマル」を模索する一方で、投資家側にしてみれば出資する前にまずは直接会いたいと思う気持ちは変わりません。

新型コロナの影がおよそ感じられない唯一の投資家が、2020年に五つの大規模投資ラウンドを終えた NordicNinja VC です。日本のLPを持ちフィンランドを拠点とするVCの NordicNinja は、東京のステークホルダーの存在感を維持できているという点ではコロナ禍で身動きの取れない世界では理想的な形と言えるでしょう。

もう一社コロナ禍がもたらした溝を埋めるのに成功した日本企業があります。大手商社の伊藤忠商事です。伊藤忠は今年に入ってCleveronと緊密な提携関係を結び、またSensible 4の7億4200万円の資金調達ラウンドに参加するなど日本と関係のあった北欧のモビリティ企業2社との関係を築きました。また技術系分野でエストニア最大規模のVC企業が管理するファンド、Tera Ventures 2に約2億4700万円を出資しています。

今年は概してモビリティ、ロジスティクス、および配達分野のテクノロジーに特化した企業に人気が集まっているようです。Voi (電動スクーター)、Sensible 4 (自動運転)、Cleveron (自動小包配達)、Logmore (輸送の品質管理)、Veriff (オンラインID認証プラットフォーム) がその例です。

とはいえこれがポストコロナの新しい世界のニーズを反映しているのかどうかはまだわかりません。

それでも確実に言えるのは、日本のVCとCVCはリミテッドパートナーとして北欧の仲間達との可能性を探ろうとしていること、そして現地パートナーの力を借りて世界的なロックダウンの溝を埋めようとしていること。デジタルサービスを支援する北欧のテクノロジーは依然必要とされています。

北欧ニュースダイジェスト

-  FI 産業用VR/XRハード&ソフトウェアメーカーの**Varjo**、Nordic Ninja VC他から**シリーズCラウンドで約57億6000万円**を調達。
-  EE 突然の心停止を予測できるAIアルゴリズムを開発した**Transformative AI**、約1億7500万円の資金を確保。
-  NO 遠隔治療サービスの**Nurx**、**約23億8000万円**を調達。
-  SE スtockホルムの波力エネルギー技術開発**CorPower**、Midroc New Technology他が率いる**資金調達ラウンド**で約11億3000万円を調達。
-  EE 日本の大手商社**伊藤忠商事**、地元エストニアのアーリーステージスタートアップのアジア市場参入を支援する**Tera Ventures**に2億4700万円の投資。
-  DK **TinyMobileRobots**、道路や運動場の測量・測定・マーキングを行うロボット向けに最新の投資ラウンドで約2億2600万円を獲得。
-  DK コペンハーゲンのPractio、COVID-19抗体検査などのワクチン接種や検査の予約用デジタルヘルスケアプラットフォームの英・独市場拡大の加速に向け約**10億2000万円の資金を調達**。

北欧各国の新型コロナウイルスの状況

世界では7月以降再び新型コロナウイルスの感染が広がり、一旦収束した国々でもその傾向が見られます。北欧諸国もその例に漏れず、特にデンマークやスウェーデンでは8月上旬に小規模な感染者の発生が続きました。現在新規感染者数は10万人あたりデンマーク・スウェーデンで15-20人、ノルウェー、フィンランド、アイスランド、エストニアで1-6人と安定しています。

北欧全体では重篤患者数は依然極めて少なく、増加の兆候も見られません。すべての封鎖をほぼ解除する一方で、検査件数の拡大、感染者の検出、対象を絞った隔離政策などを講じて北欧諸国は新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めています。

「GRAZPER」インタビュー

テックソリューションの内容や分野は？

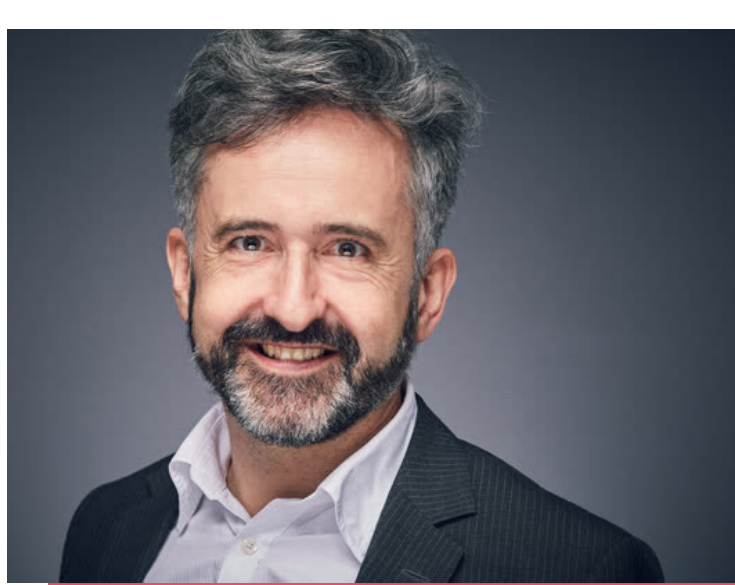
Grazperは、EU一般データ保護規則(GDPR)に則り、カメラに搭載されたデバイスを介して匿名で対象を追跡できる、2D・3Dビデオ分析用の組み込み系AIソリューションを開発しています。スタッフの半数は人気ゲーム「ヒットマン」の開発でゲーム業界にデビューした人々で、3Dプログラミング仮想世界のプロが集まっています。今日私たちが専門としているのはその真逆、つまり現実世界から3Dデータを抽出することです。このデバイスは、道で人と車両をカウントするだけでなく、個々の個人データを記憶せずにナンバープレートの数字を読み取ります。今年初めに創立100年以上の歴史のある横河電機による買収が成立し、今後日本・欧州・米国進出に向けたサポートを期待しています。

なぜ日本のイノベーションエコシステムや市場に関心が？

日本は昔から高度な産業用組み込み機器が様々な分野で見られ、製品開発の観点からとても魅力ある市場です。北欧のイノベーションエコシステムに注目した日本の大企業に後ろ盾されていることに大きな可能性を感じています。Grazperが培った今日の北欧のビジネス文化に深く根ざすスタートアップ文化の経験が、私たちの新しいパートナーシップにも役立てられるといいですね。そしてGrazperも長期計画の立て方や作業工程をより能率的に構築する方法を横河電機から大いに学べると 생각합니다。

日本市場参入への一番の壁は？

日本のパートナーとの関係は驚くほど順調です！英語も堪能で西洋文化に精通しているので、コミュニケーション上の問題はありせん。とはいえ私の周辺で日本の関係先と連携がうまくいっている会社について詳しいわけではないのですがね。

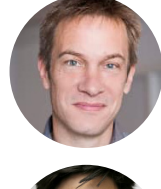


名前: Thomas Jakobsen
役職: 取締役社長
社名: Grazper (グラスパー)
エコシステムの所在地: デンマーク、コペンハーゲン
設立: 2015年
連絡先: Andrea Svaneeng (オフィスマネージャー)、andrea@grazper.com

北欧イベント(オンライン開催のみ)

- 9月15-16日 **The Copenhagen Fintech Week**、北欧テイスのグローバルフィンテック会議を体験。
- 9月17-18日 **TechBBQ**、北欧のスタートアップと世界中の投資家ステークホルダーが集結するスカンジナビア最大のテックサミット。

編集者



ピーター・ヨハンセン
プロジェクトマネジャー
pj@asia-house.dk



ユリアン・森江・原・ニルセン
日本担当コンサルタント
jni@techbbq.org



「イノベーション・ラボ・アジア」はデンマーク産業財団の支援の下でAsia HouseとTechBBQが共同で運営するプロジェクトです。詳しい内容については以下からご覧ください。



報告書(日本関連)



[その他の報告書](#)

